

災害に強く信頼性の高いネットワークの構築 (復興基本方針関連 (全国防災))

■計画の期間 : H23~H26 (4箇年)

■交付対象 : 静岡県

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

1

計画の概要

計画の目標

雨量規制区間や緊急輸送路において、道路構造物を改善することにより、
地域の孤立防止対策や大雨・地震に強い道路ネットワークの整備を推進する。

事業期間

平成23年度～平成26年度

計画の成果目標 (定量的指標)

指標① : 道路防災点検危険個所の整備

指標② : 耐震対策完了橋梁数/要耐震対策橋梁数

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

2

静岡県社会資本整備重点計画における位置付け

第3期重点計画（H25～H29）

●指標① 道路防災点検危険個所の整備	
分野名	安全・安心
目標名	風水害に強い基盤整備
指標名	道路斜面の要対策箇所対策率
目標値	81.3% (H29)
●指標② 耐震対策完了橋梁数／要耐震対策橋梁数	
分野名	安全・安心
目標名	地震災害に強い基盤整備
指標名	重要路線等にある橋梁の耐震化率
目標値	100% (H34)

<実施事業>

社会資本整備総合交付金

安全・安心緊急道路対策事業（県単独事業）

災害防除（県単独事業）

<実施事業>

社会資本整備総合交付金

道路施設震災対策（県単独事業）

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

3

指標① 道路防災点検危険個所の整備

指標の設定

■大規模災害発生時等の道路ネットワークの確保

○静岡県では、緊急輸送路上で事前通行規制区間内にある道路防災点検危険個所の対策を重点的に実施。

■当該整備計画の対象

○対象箇所の選定にあたっては、緊急輸送路上で事前通行規制区間内の被災履歴がある周辺の緊急度の高い箇所を選定。

■設定した指標

○平成26年度末までに3箇所の対策を実施。

<対象の要素事業>

- （国）136号 仁科工区
- （国）135号 網代工区
- （一）静岡焼津線 浜当目工区

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

4

指標② 耐震対策完了橋梁数／要耐震対策橋梁数

指標の設定

■県が進める橋梁耐震対策

○静岡県では、緊急輸送路にある橋長15m以上、昭和55年道路橋示方書より古い基準で設計した橋梁（全247橋）を優先して、平成26年度末までの完了を目標に対策実施中。

■当該整備計画の対象

○未対策の50橋を対象（H23年度末）

■設定した指標

○平成26年度末までに耐震対策を完了させ100%とすることを指標として設定。

全体

247橋

うち平成23年度末で対策済の橋梁

197橋

うち平成23年度末で未対策の橋梁

50橋

当該事業で対策実施

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

5

対策工事の実施事例

指標① 道路防災点検危険個所の整備

26-A' 9(法面对策)

(国) 135号 網代工区

(熱海市網代)

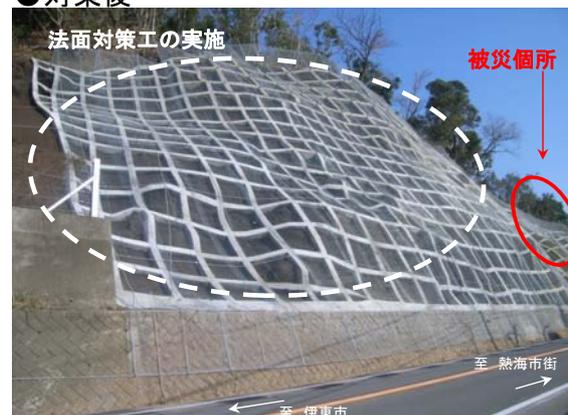
被災時の状況



●着手前



●対策後



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

6

26-A' 14 (橋梁の耐震対策)

参考
(阪神淡路大震災での落橋事例)



(一) 富士由比線 富士川橋 (富士市松岡)

●着手前



●対策後



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

定量的指標の達成状況

指標① 道路防災点検箇所の整備

当初現況値	最終目標値	最終実績値	達成率
0箇所	3箇所	3箇所	100%

●計画していた落石対策工事は、予定どおり完了した。

指標② 耐震対策完了橋梁数／要耐震対策橋梁数

当初対象数	対策必要数 (架替等除いた数)	実施数	達成率
50橋	43橋	38橋	88%

●対策が架替等に変更となった7橋を除くと、対象43橋の達成率が、約90%となった。

●5橋は、施行ヤードの借地交渉や国との河川協議の難航等により、対策完了できなかった。

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

今後の方針

○耐震対策工事が未完了の5橋は、平成27年度末に2橋完了予定であり、残り3橋も関係機関と調整の上、順次対策を進めていく。

○また、架替等の計画により耐震対策工事の不要となった7橋については、河川改修等の他事業との調整を図りながら、早期の完成に努めていく。

○有事の際に、道路が果たす役割は大きく、引き続き、橋梁の耐震対策や道路防災対策など、緊急輸送路をはじめ、災害に強く信頼性の高いネットワークの確保に努めていく。

○南海トラフ巨大地震に備え、県が推進している「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2013」では、耐震対策橋梁の対象を拡げ、交通量が多い路線や100m以上の長大橋といった重要路線等にある約560橋を対象として整備を進めることとしている。

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA